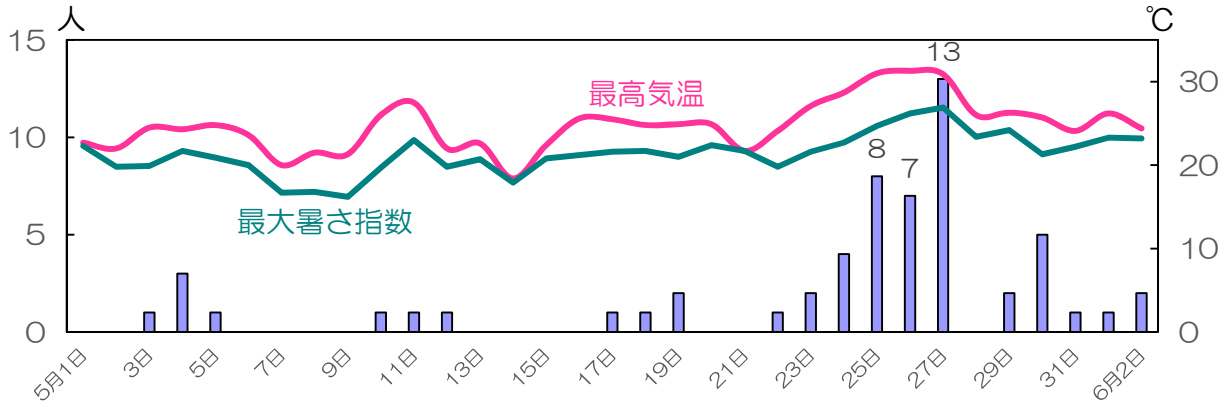


# 熱中症情報

## ＜搬送数＞

令和元年5月1日～6月2日までの搬送数（消防局データを使用）は、計58人でした。5月25～27日は真夏日（最高気温30.9～31.3℃）となり、搬送数も7～13人と多かったです。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温は28℃を超えないように調節し、暑さから身を守りましょう。



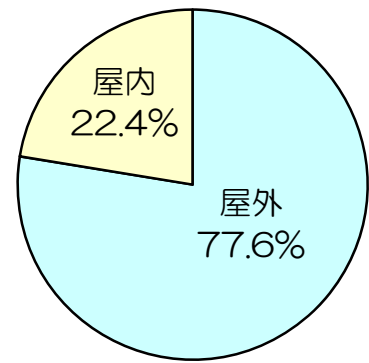
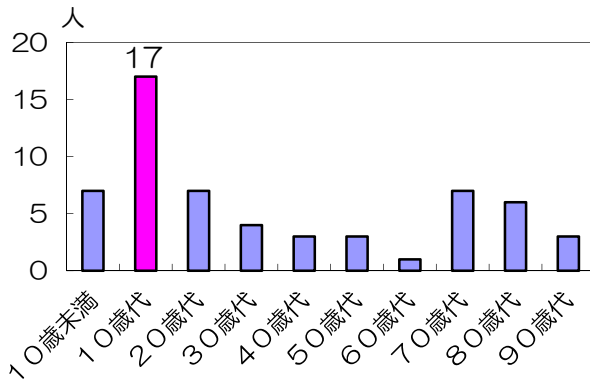
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## ＜年齢別＞

年齢別では、10歳代が17人と、最も多く、29.3%でした。

## ＜発生場所＞

屋外77.6%、屋内22.4%で、屋外での発生が多くなっています。



## ＜重症度＞

軽症79.3%、中等症17.2%、重症3.4%でした。

中等症は、高齢者（65歳以上）の屋外での歩行中・スポーツ中・作業中に発生しており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

